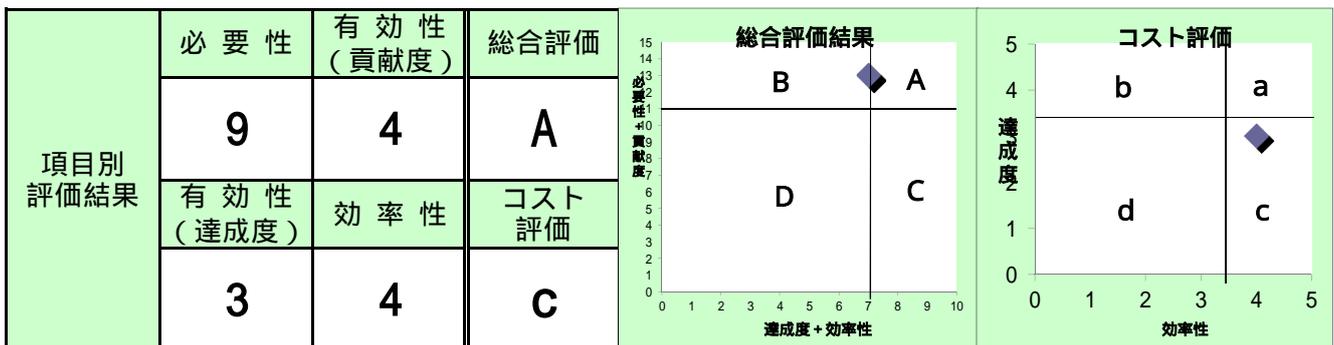


3. 事業の評価 (Check)

区分		評価		説明
必要性	ニーズ	5	ますますニーズが高くなっている。	農家の高齢化に伴う耕作放棄地の増加や森林等の管理が昔と比べて少なくなったため、ニホンザルの出没・被害が年々増えてきており、住民から対策に関する問い合わせが多い。
	公共性	4	民間でも可能だが行政が担うべき事業である。	個人・集落単位で対策費用を捻出するのは困難でありニホンザルを誘引しにくい集落環境づくりの整備や、防除活動に対する支援等が必要と考える。
有効性	達成度	3	どちらとも言えない。	市からの支援等によりニホンザルの被害が少なくなった地域がある一方、今まで被害がなかった地域にも新たに被害の情報があり、引き続き事業を進めていく必要がある。
	貢献度	4	昨年と同程度の成果をあげ、施策に反映されている。	他地域での取組等も情報収集しつつ、新規事業を行うなどして、被害防除に努めている。また、新たに集落環境診断・ワークショップを実施するなど、意識啓発に努めている。
効率性		4	事業に見合うコストである。	市民からの要望を汲んだ上で、県からの交付金を受けながら、効率よく事業を進めている。



4. 今後の方向性 (Action)

事業の 方向性	方向性	拡充
	理由	鳥獣被害対策の実践的活動を担う「鳥獣被害対策実施隊」の設置や、今後も増大することが見込まれるニホンザルやツキノワグマによる被害に対する防除等事業の実施、更には、県内でイノシシによる被害が増加している状況を鑑みて、現行の事業の他にも新たな事業を進めて行く必要があるため。
	今後の対応 (改善策等)	村上市鳥獣被害対策実施隊の設置(12月議会に併せて報酬等の条例改正および要綱制定予定) 近接警戒システムの導入(サルが集落に近づいてきたら、警報が鳴る仕組み) ツキノワグマ用の捕獲檻の導入(老朽化ならびに被害防止のため) テレメトリー調査の一部方式の改善 (サルの現在地が把握できる一方、集落への周知が徹底されていないため、マニュアル等の整備が必要)

5. 【総合評価】(行財政改革推進本部会議)

今後の方向性	
結論	当該事業の今後の方向性はどうか。 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	(理由)
	担当課の方向性を了承する。

活動指標	指標名	単位	H23		H24		H25		H26	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
活動指標	ワークショップ実施回数(集落数)	回	目標	-	目標	-	目標	-	目標	2
			実績	0	実績	0	実績	0	見込	2
	メスザルへの発信器装着数	匹	目標	-	目標	20	目標	20	目標	20
			実績	4	実績	7	実績	10	見込	11
	有害鳥獣(カラス)の駆除数	羽	目標	500	目標	500	目標	500	目標	500
			実績	309	実績	354	実績	345	見込	254
			目標		目標		目標		目標	
			実績		実績		実績		見込	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	H23		H24		H25		H26	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
成果指標				目標	-	目標	-	目標	-	目標	
				実績	-	実績	-	実績		見込	
				目標	-	目標	-	目標	-	目標	
				実績	-	実績	-	実績		見込	
				目標	-	目標	-	目標	-	目標	
				実績	-	実績	-	実績		見込	

数値で 表せない成果 (見込み)	
------------------------	--